

# 特集 認知症って何だろう？

問合せ 市民病院管理課管理G ☎28-5151 内線2203

## はじめに

認知症は、高齢者の人口増加もあり、患者数が増え、身近な病気となっています。

## 認知症とは

「いったん正常に発達し獲得した知的機能が持続的に低下し、普通の社会生活に支障をきたすようになった状態」のことを認知症といいます。

できていたことができなくなりますが、例えば加齢による機能低下は含まれません。だれでも若いころに比べると記憶力の低下を感じるものですが、これは、すなわち病気ではありません。また一般的に急に発症するのではなく、ゆっくり進行します。そして、生活に支障をきたす状態であるという点が重要です。

認知機能低下はあるが、日常生活への支障が少ない状態を軽度認知障害(MCI※1)としています。認知症になるリスクがあるので、経過観察が必要になる場合があります。

表1 認知機能低下をきたす主な疾患

アルツハイマー型認知症	神経変性疾患
レビー小体型認知症	
前頭側頭型認知症	
血管性認知症	脳血管障害
慢性硬膜下血腫	脳外科的処置をとれることがある
正常圧水頭症	
クロイツフェルト・ヤコブ病	プリオン病
神経梅毒	感染症
甲状腺機能低下症	全身疾患にともなうもの
ビタミン欠乏症(B <sub>1</sub> ,B <sub>12</sub> )	



図1 ある日の会話『見当識障害』

## 診断

せん妄など意識障害、うつ状態などは除外します。認知機能低下をきたす疾患(表1)はいろいろあり、複数が合併していることもあります。ビタミン欠乏症や甲状腺機能低下症などがあれば、そちらを治療します。認知機能検査やCT、MRI、脳血流SPECTなど画像検査もふまえて総合的に判断します。急性疾患などで治療中は認知機能検査に影響があるので、回復後評価診断することもあります。

